

第18号
2005年
1月1日

次回例会

期日 1月23日(日)
夜7時〜8時半

プログラム

お勤め・法話

話し合い

仙教讚歌練習

◎話し合いテーマ

「何故いのちは

「尊いのでしょうか？」

শুভ

あらたまの年のはじめは祝うとも

南無阿彌陀仏のころわするな

（蓮如上人）

春は称名に入って口初めて開く

声は高し 無量寿如来

（仙崖和尚）

新年のご挨拶を

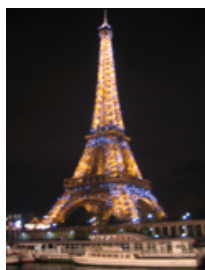
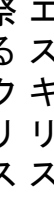
申し上げます

副会長 田中 薫

新年明けましておめでとうございます。

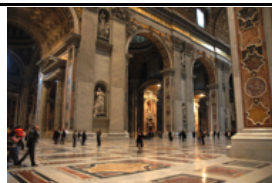
10日間は、昨年11月17日から、大都市リヨンで開催された「ブル関連商品の見本市と、パリ、ロームの上下水道の視察研修に参加させていただきました。

花の都パリは
エッフェル塔全
体が電飾され、
イエスキリスト
を祭るクリスマス



た。スミード一色で眩いばかりでし

また、パリ、ノートルダム寺院では、観光客に混じつて、熱心にお祈りを捧げる異教徒のうしろ姿に、思わず去年参拝させていただいた本願寺での自分の姿がオーバークラップしてしまいました。



ノートルダム寺院は「背むし男」で有名ですが、その石造り寺院の重厚さ、スケールの大きさ、ステンドグラスの美しさは、宗教の違いを超え見る者に久

しく感動を与えるものでした。

この視察旅行中、リヨン及びパリ、ノートルダム寺院、ローマのバチカン宮殿とキリスト教の大寺院を訪れましたが、どの国、都市においても、寺院が市民の心の憩いの場であり、生活の中心におかれているという事を改めて実感させられました。どんな田舎町にも、それに似つかわしい教会があり、これも日本と同じだなと思いましたが、違ふところは日曜日、デパートも休業し、市民が三々五々教会にお祈りに行ったり家で休息する習慣が、今も連綿と受け継がれているところでした。

日本でも、ほんの一時期前まで、お寺は地域文化の発信地であるとともに、心のよりどころとしての集いの場でもあったはずですよ。

そのような自然な姿が今の日本では少なくなってしまったことを、異郷の地で教えられ考えさせられてしまいました。

梅鶯仏教壮年会が、少しでも心豊かな世界を求めることのできる仲間の集いとして、本年もますます発展していくことを念

（写真撮影も田中
じています。
氏）

題材法話

○ 昨年を振り返って

昨年を振り返りますと、本当に様々な出来事がありました。

各種の自然災害に遭われた方々の悲しみ、苦しみが、計りしれません。大自然の摂理の中では、人間もほんの一部にすぎないことも思い知らされました。

また、痛ましい戦禍や凶悪犯罪の報道を聞くにつれ、恐ろしさとともに、なにか底知れない人間の悲しさといったものを感じます。

いとおしいはずのいのちが、時として理不尽にも奪われ、ともすれば人間同士が奪い合うことさえする。

戒め、真実の道を歩ませようとするのが本来の宗教であるはずですが。

○ 仏教の「いのち観」

仏教は、その教えの根本に縁起という



かされて生きており、また他を生きながら生きていくという事です。

そして他の命も等しく尊い命、なると説くのです。

特に浄土真宗・一念仏の阿彌陀さまから一人一人のうに願われて生きておる存

命が等しく尊く、一つ一つのいのちが命なのだと教えるのです。

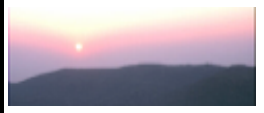
しかし、そうであるにも関わらず、私たちはいつも鏡で、人やものを映してしま

う。そして自分の色眼鏡に合

われないことがあれば悩み苦しみを、時として合わない相

手を嫌ったり邪魔者扱いし

たり、あげくの果てには争いまで起こしてしまふ存在であることに早く気がつく



いのちながら生きている「いのち一つとても無駄な命はない」という世界観を通じて明らかにしているのです。

○ シロアリと私

実は私もそのように味わ

で、出版「最近一大乗（本願寺出版）」という冊子の中に書かれたある記事を読み

、目から鱗が落ちる思いを

もした。もう20年以上前の

と、もう20年以上前のこの

堂も庫裡もひどくシロアリに食いつきました。



んな底がぼろぼろで、床板をめぐり根太を軽く叩いたから、どすんと穴が開き、中

から「じゃじゃじゃ」と音を立てて無数のシロアリが

出てくるのです。今でもあの背景は目に焼き付いていて、背筋が寒くなる思いがします。

○ シロアリを色眼鏡で見ていた私の自我

もうそのときは半ばノイロ―ゼ気味で、結局は京都から駆除業者を呼び、全面的にシロアリ対策をして、

どうにか収まったのですが、坊守をはじめ家族全員が大変な苦勞をしました。

的、感覚的にシロアリほどい

続けたきたのであります。

と、私の自我が「ガッン」と頭を打たれたのです。（次号につづく）

